

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は少し前だが、次のようなテレビを見たことがある。

それは一家そろって、馬を子どもの中から立派に育てあげるといふ話である。そのためには寝食しんしょくを忘れ家庭生活も犠牲ぎせいになるぐらいの苦勞であった。そうして育てた馬を売ってしまうと、あとは気の抜けたぬような空虚くうきょが一家を襲おそう——そういうノンフィクションの探訪であった。よく出来た作品だったが、私は驚おどろいた。最後にアナウンサーが、昔の日本の農村はこのようにつらかった。それが残っているのです。こういう人たちは馬を育てることだけに全力をあげねばならない。それに一家の手がとられてみんなテレビも旅行も知らないのです、と締めくくったからである。

① ① こういういうとらえ方は、とんでもない間違いであろう。馬を立派に大きく育てるために自分を犠牲にする、そんな楽しい「ひまのつぶし方」というのはそうあるものではない。テレビを見たり、パツク旅行*1をしたりする全く受動的なひまつぶしとは比較ひかくにはならないのだ。それをつらいというのは、**A** という戦後日本人の思い込みがあるからにすぎない。

確かにやりたくはないが、生きていくための義務としてやっていると家人が思っているのならそうだろう。**B**、そのテレビではみんな生き生きと楽しみをこめて馬を愛育しているのである。それをつらいと断定しているのは、アナウンサーが一種の奇怪きかいな文明病にかかっているための妄想もうそうからにすぎない。

人が目標も与えられず、社会的義務もなく、野心も能力もなく、自主的にひまをつぶす

ことを要求されるほど難しいことはないのである。

受身のひまつぶしには、きびしさも工夫も何もない。少し慣れば全くの空白時間と同じ退屈がおそってくるはずだ。それに比べたら、無理な労働でなく、ある程度の収入が約束されるかぎり、むしろ働くことの方が、また働かされる方がまだましなのだ。働きにはどんなに間接的ではあれ、創造とか社会的寄与という喜びがあり、報酬も与えられる。家族を養うという一つの生き甲斐も与えられる。ひまというのは少ないからこそ貴重なのであり、働いた余暇だからこそ楽しいものなのである。

—— 中略 ——

このままひまがあればあるほどよろしいという考え方だけをその方向に暴走させれば、日本はそれこそ②アンニユイの洪水になつてしまう。C 昔の人は「小人閑居して不

善を為す」と言った。それは心配しすぎでありまた③使用者側の勝手な言い分といえるけれど、その心配は決してないわけでもないのである。

現在の中国で人々が大変幸福そうな顔をしていると報じられる。確かにそうだろう。それは社会に不正がないという安心感だけのせいではない。

まだまだ貧しい中国では日本人の二倍も三倍も働かねばならない。ひまがない。そこに外国の人などが来た。限られたごくわずかな時間に外国人を見物するのだ。その時間がきわめて楽しい時間になる。D うれしそうな、楽しそうな表情になる。そのことも忘れてはならない。

徳川時代など、客人がよろこばれたというのと④似ている。そこからくる変化、それはごくわずかな時間だが、それゆえ非常に有効に働いたのだ。交通の不便を考えれば、それ

がどんなにわずかの時間の接触せつしよくかはおわかりできよう。だが、そういう条件下の訪問だからこそ両者の接触到火花が散り、相互理解そうごも信頼しんらいも親しさも生まれたのだ。私たちは今や、⑤忙いそがしさの効用をもっと考えてよい時に来ているのではないだろうか。

(会田雄次『新選日本人の忘れもの』PHP文庫)

《語注》

*1 パック旅行・・・業者によって企画きかくされた、いくつかの名所を盛り込んだ旅行。

*2 アンニュイ・・・倦怠感けんたいかん。けだるい様子。

*3 小人閑居しょうじんかんきよして不善を為す・・・儒教じゆきやうの基本文献きほんけんである『大学』の言葉。つまらない人間はひまであるとよくないことをしがちであるの意。

問一 ぼう線部①「こういうとらえ方」とはどのようなとらえ方ですか。本文中の言葉を使い、解答らんにあてはまるように二十字以内で説明しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問二 空らんAに入る言葉としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア ひまつぶしはむずかしいもの

イ 仕事はありがたいもの

ウ ひまつぶしはよくないもの

エ 仕事はつらいもの

問三 空らん B・C・Dに入る言葉としてふさわしいものを、それぞれ次の記号から選びなさい。

ア および イ だから ウ しかし エ たとえ オ ただし カ それに

問四 波線部と同じ意味・用法で「かかる」が用いられているものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア 詐欺さぎにかかる。
イ 勉強べんきょうにかかる。
ウ 医者いしゃにかかる。
エ 裁判さいばんにかかる。

問五 ぼう線部②「アンニユイの洪水になってしまおう」とありますが、それを説明した次の文の空らんに入る言葉としてふさわしいものを、文中からそれぞれ漢字二字でぬき出しなさい。

人々がみな I のあまりに充足感のない II を送ること

問六 ぼう線部③「使用者側の勝手な言い分」とはどのような言い分ですか。「社長」・「社員」の二語を必ず入れて、三十字以内で具体的に説明しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問七 ぼう線部④「似ている」点の説明としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

- ア 人々が休む合間の限られた時間に仕事を楽しむ点。
- イ 人々が働く合間の限られた場所で仕事を楽しむ点。
- ウ 人々が働く合間の限られた時間に変化を楽しむ点。
- エ 人々が休む合間の限られた場所で変化を楽しむ点。

問八 ぼう線部⑤「忙しさの効用」の意味としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。ただし、効用とは効果と同じ意味です。

- ア 忙しく働く中で自己犠牲を苦にしない忍耐力にんたいを身につける。
- イ 忙しい合間だからこそ、余暇は生活の変化として楽しめる。
- ウ どんなに忙しくても社会に役立つ余暇を考えるべきである。
- エ 退屈なひまつぶしをなくすためには忙しく働くしかない。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《これまでのあらすじ》

トモカズくんの家に行った「俺（幼稚園児）」は生まれたばかりの子犬を見たくて犬小屋に手を入れたために、母犬に手を噛まれてしまった。病院で傷口を縫ってしばらくすると、「俺」の母親が病院に来た。

しばらくして俺の母親が病院にやってきた。とても我が子が怪我をしたとは思えないほど悠長な登場だった。

そしてトモカズくんの両親に頭を下げるなり、俺の頭を思いきりひっぱっていた。てっきり「大変やったねえ大丈夫か？」というやさしい言葉を期待していた俺は、叩かれた痛みよりまずそのギャップに驚いて母親を見あげた。すると母親は怖い顔でひと言こういうのだった。

「アンタが悪い」

意味のわからない俺はなんで？ と聞き返すしかない。

「電話で聞いたけど、子犬を産んだばかりの母犬の犬小屋に手突っ込んだんやって？ そんなもん、いきなり子ども取られそうになったら怒るのは当たり前や。アホ」

その後も母親は傷をいたわる様子もなく、むしろ迷惑かけてすいませんとトモカズくんの両親に向かって①俺の頭をぐいぐい押さえつけるのだった。右手は A 痛いし、友達の前でそんなことされてずいぶん恥ずかしかったのを覚えている。

【トモカズくんの両親は、うちの犬が本当にすいませんと何度も謝あやまっていたが、負けじと母親も謝り続けるものだから、病院の廊下ろうかでお互たがいすいませんすいませんと頭を下げ合う変な光景がしばらく続いたのだった。俺をほったらかして。】

その後、俺は母親と一緒にいっしょもう一度トモカズくんの家へと向かうことになった。向かう途中とちゆうも右手は痛むわ、なんで怒られたのか納得なつとくいかないわで俺はすっかり拗すねていた。母親は②そんなことおかまいなしに、トモカズくんの家に着くなりこういうのだった。

「その母犬はどこにいます？」

そしてトモカズくんのお父さんに案内されて犬小屋のある庭へ行ってしまった。

しばらくして庭のほうから俺を呼ぶ声がする。一度噛まれてすっかり怯おびえている俺は嫌いやだったが、いいから来なさいとうるさい。仕方なく B 庭へ出ていくと、ほら早く来なさいと犬小屋の前で母親が手招きしている。恐おそる恐る犬小屋に近寄ると、昼間とは違って変わった様子の親犬が C に俺を見あげていた。

「な？ まさる。この犬だって別に噛みたくて噛んだわけ違うんよ。でも、知らん人間がいきなり自分の子どもを触さわろうとしたら、母親として守ろうとするのは当たり前やろ？ ほら、こんなにしよんぼりしてやるやないの」

母親はそういうのだ。

「まさる、アンタからも犬にちゃんと謝り」

なんで？ という俺にさらに母親はいう。

「悪いのはアンタやのに、自分が悪いことしたと思って、こんなに悲しそうにしてやるやないの。ええから謝り」

「なんでなん。痛い思いしたのボクやのに」

「まだいうか、このアホ」

また叩かれた。仕方なく小さい声でごめんなさいというと、母親は「ヨシ」といって、そばに立っていたトモカズくんのお父さんにこういった。

「あの、すいませんけどこの子に子犬を見せてあげてもらえませんか？ お父さんのいうことならこの母犬も安心してきくと思うんです。すいませんけど、お願いします」

いいですよ、というトモカズくんのお父さんは犬小屋へと近づき、そこに座ると子犬を一匹抱きあげた。不思議なことに、トモカズくんのお父さんが近寄っても母犬はまったく平気で子犬を触らせるのだった。

「はい、右手は痛いだろうから左でだっこできるか？」

そういつてトモカズくんのお父さんが子犬を差し込んだ。子犬はクンクンいつていて、とても温かかった。白い母犬が少し心配そうに見ていたが、昼間の表情とは全然違う。

「わかったやろ。犬が怒るようなことせんかったら何もないの。これからはちゃんと気をつけるんよ」

母親はそういつて子犬の頭を撫で、母犬にもごめんねというのだった。

それでも俺は母犬のことがまだ少し怖かったのだが、強引に腕をつかまれ無理矢理その頭を撫でさせられた。もう噛まれなかったし、母犬はまだ申し訳なさそうな顔をしていた。そしてケガをしていないほうの左手を

D

なめるのだった。

噛まれた右手は痛かったし、母親に叩かれて二度痛かったけど、その時③自分が悪かったんだと教えられたから、俺はいまだに犬を怖がらないのだと思う。

問一 ぼう線部①「俺の頭をぐいぐいと押さえつけるのだった」とありますが、このときの「俺」の気持ちとしてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア トモカズくんの両親に対する母親の細やかな気づかいにおどろいた。

イ トモカズくんの両親に謝ることができて、ほっとした。

ウ 悪かったのは自分だが、頭を押さえつけられるのは嫌だった。

エ なぜ自分が謝らなければならぬのかわからなかった。

問二 空らんA、B、Dにあてはまる言葉を次の記号からそれぞれ選びなさい。

ア ぺろぺろ イ しぶしぶ ウ ちくちく

エ ずんずん オ じんじん カ ぱくぱく

問三 【一】の段落に使われている表現技法を、次の記号から一つ選びなさい。

ア 倒置法とうち イ 擬人法ぎじん ウ 直喩ちよく エ 体言止め

問四 ぼう線部②「そんなこと」とありますが、どのようなことですか。文中の言葉を使い、三十五字以内で説明しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問五 空らんCにあてはまる言葉を文中から七字でぬき出しなさい。

問六 ぼう線部③「自分が悪かったんだと教えられた」とありますが、「俺」は自分のどのような行動が悪かったのだと学びましたか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。(句読点や記号も字数に数えます。)

問七 この文章の主題としてふさわしいものを、次の記号から一つ選びなさい。

ア 犬に噛まれて大けがをしたうえに、母親にたくさん叱られた、幼い日の思い出にまつわる、「俺」のやるせない思い。

イ 自分の不注意のせいで大けがをしたうえに、みんなに多大な迷惑をかけてしまったことに対する「俺」の後悔。

ウ 我が子が傷口を縫うほどの大けがをして戸惑う中、我が子優先の視点でさまざまな問題を解決していった母親の愛情。

エ 母親の行動に理不尽さを感じながらも、順番に問題を解決した母親のおかげで、犬についての理解を深めていった「俺」の成長。

【三】 次のぼう線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|-------------|------------------|
| ① 南極の映像を見る。 | ② 公園に至る道。 |
| ③ 障子を張りかえた。 | ④ 存外早く解決した。 |
| ⑤ 賛否が分かれる。 | ⑥ 晩秋には色づいた葉が落ちる。 |
| ⑦ 舞台のそでに退く。 | ⑧ いところは洋裁を習っている。 |
| ⑨ 神社仏閣をめぐる。 | ⑩ 父のしつけは厳しい。 |

【四】 次のぼう線部のカタカナの言葉を漢字に直しなさい。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 公園をサンサクする。 | ② 家族でオンセンに行った。 |
| ③ サトウをたくさん使う。 | ④ 積もった雪を取りノゾいた。 |
| ⑤ コウテツのように冷たい。 | ⑥ 他国の文化やシュウキョウ。 |
| ⑦ 手をよくアラう。 | ⑧ 江戸にバクフを開いた。 |
| ⑨ コメダワラをかつぐ。 | ⑩ 太陽の光がハンシヤする。 |

【問題は以上です。】

